

第 部門

二色の浜海岸環境整備事業に対する地域住民の評価

関西大学工学部 学生員 ○岡本 怜祐

関西大学大学院 学生員 木下 嘉昭

関西大学工学部 正会員 島田 広昭

1. はじめに

近年，社会資本整備事業に対する住民意識が高まっており，住民と行政の「協働」として，住民参画の取り組みが注目されている．海岸分野においては，平成 11 年の海岸法改正により，それまで「防護」のみであった法目的に「環境」と「利用」が加えられ，海岸保全基本計画策定時に地域住民の意見を取り入れることが認められた．このようなことから，住民参画型の海岸整備事業が全国各地で行われるようになったが，その手法や制度は確立されておらず，手探りで行われているのが現状である．そこで本研究では，過去に行われた大規模な海岸整備事業に対して周辺住民へのアンケートを行うことにより事後評価を行った．このことから，当時行政が計画で期待していたものや目標としていたものが達成されているかを検証した．また，以前に大規模整備事業が実施された地域の住民が，「協働」の取り組みに対してどのような意見を抱いているのかについても調査を行った．そして，今後の社会資本整備事業に対する住民参画のあり方を提言しようとした．

2. 調査概要

本研究では，整備終了後 13 年が経過した二色の浜海岸環境整備事業を対象に，大阪府貝塚市の沢地区，二色地区住民に対して，アンケート調査を実施した．調査内容は，居住歴等の属性，二色の浜公園の利用目的や利用頻度，二色の浜海岸環境整備事業に対する意識および社会資本整備事業における住民参画に対する意識等 16 項目である．なお，調査対象地の沢地区と二色地区は，前者が二色の浜海水浴場と南海電気鉄道二色浜駅との間に位置する古くからある住宅地区，後者は二色の浜海岸環境整備事業前後にできた新しい住宅地区で，いずれも二色の浜公園に隣接している．

3. 調査結果および考察

図-1 には，周辺住民の二色の浜公園の利用目的を示した．これによると，沢地区，二色地区ともに「散歩」が 50% 以上であった．つづいて，「釣り」，「スポーツ」，「バーベキュー」が多くなっていた．このように，海水浴以外の目的としても利用され，海浜レクリエーションの拠点として認知されている．

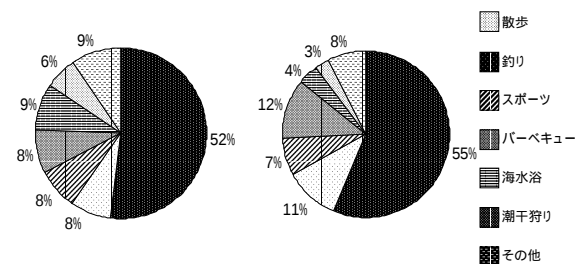


図-1 二色の浜公園の利用目的

図-2 には，周辺住民の二色の浜海岸環境整備事業の目的や概要の認知度を示した．これによると，沢地区が 21%，二色地区が 10% であった．このように，両地区とも認知度がかなり低い結果となったが 21% と 10% の人が事業目的や概要を認知しており，目的や概要の情報を得る機会があったことが明らかとなった．

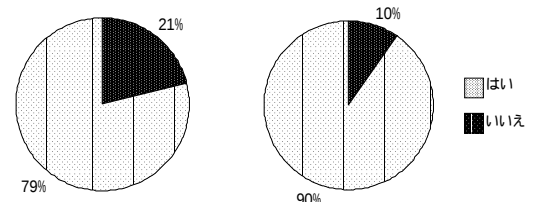


図-2 二色の浜海岸環境整備事業の目的や概要の認知度

図-3 には，周辺住民の二色の浜公園に対する意識のうち，浜や水についての評価を示した．これによると，沢地区では，「大変綺麗になった」が 9%，「綺麗になった」が 40% であった．また，二色地区では，「大変綺麗になった」が 2%，「綺麗になった」が 47% であった．また，図-4 には，景観についての評価を示した．これによると，沢地区では，「大変良くなった」が 11%，「良くなった」が 51% であった．また，二色地区では，

「大変綺麗になった」が 2%，「綺麗になった」が 47% であった．また，図-4 には，景観についての評価を示した．これによると，沢地区では，「大変良くなった」が 11%，「良くなった」が 51% であった．また，二色地区では，

Ryosuke OKAMOTO, Yoshiaki KINOSHITA and Hiroaki SHIMADA

「大変良くなった」が6%、「良くなった」が43%であった。このことから、周辺住民の約半数は事業後の二色の浜公園の浜や水および景観に対して高い評価をしていることがわかる。ただし、景観については、「阪神高速道路湾岸線が出来たことで景観が悪くなった」という住民の意見もあった。また、図示はしていないが、二色の浜の利便性については、沢地区では、「大変良くなった」が5%、「良くなった」が51%であった。また、二色地区では、「大変良くなった」が3%、「良くなった」が49%であった。このように、両地区とも過半数が良くなったと評価していることから、二色の浜公園の利便性は向上しているようである。

図-5には、二色の浜公園に対する改善点の有無を示した。これによると、「はい」と答えた人は沢地区が85%、二色地区が74%であった。また、その主な改善点として、両地区とも、「海水の浄化」、「清掃活動」、「公園利用・駐車マナー向上のPR」という意見が多い。したがって、二色の浜海岸の水質の改善、公園のゴミ問題や利用者マナーの向上が二色の浜公園の活性化のためにも重要な課題であると言える。

図-6には、社会資本整備事業に対する住民参画の必要性について示した。これによると、沢地区において最も多かったのは「絶対に必要」の51%であり、つづいて「どちらかといえば必要」が39%であった。また、二色地区において最も多かったのは「どちらかといえば必要」の56%であり、つづいて「絶対に必要」が39%であった。このように、両地区ともに90%以上の住民が社会資本整備事業に住民参画は必要であると考えていることがわかる。

図-7には、社会資本整備事業における責任の所在を示した。これによると、沢地区において最も多かったのは「行政と住民に同程度の責任がある」の58%であり、つづいて「全面的に行政」の21%であった。また、二色地区において最も多かったのは「行政と住民に同程度の責任がある」の68%であり、つづいて「全面的に行政」が15%であった。なお、「その他」の項目に含まれる代表的なものとしては、「事業によって異なる」、「事業内容の決定権の有無による」等が挙げられていた。これらのことから、大規模整備事業の経験に差のある2地区において、過半数の人が住民にも責任があると考えていることがわかった。

また、住民参画型事業における責任問題については慎重に考えていることがわかった。

以上、当時、住民の整備事業の目的や概要の認知度は低い結果となったが、事業後の二色の浜公園に対する評価は高いものであった。また、住民参画は多くの人が必要としており、住民参画型事業における責任問題については、過半数の人が住民にも責任があると考えていることが明らかとなった。

最後に、ご多忙の中、調査に協力して下さった大阪府、貝塚市の関係各位、ならびに沢地区、二色地区の住民の皆様へ深謝の意を表する。

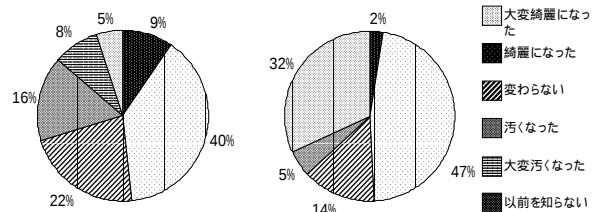


図-3 二色の浜公園に対する
周辺住民の評価(浜や水)

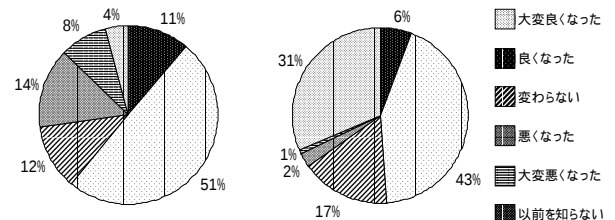


図-4 二色の浜公園に対する
周辺住民の評価(景観)

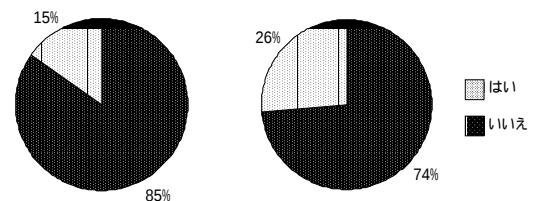


図-5 二色の浜公園に改善点はあるか

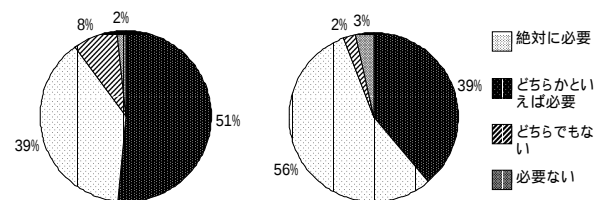


図-6 住民参画の必要性

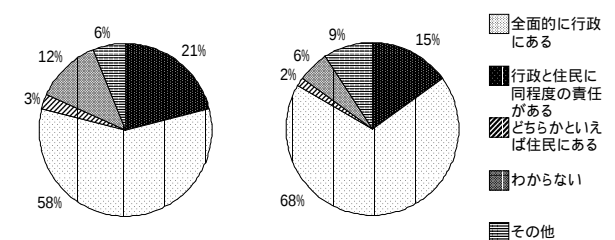


図-7 住民参画型事業における
責任の所在